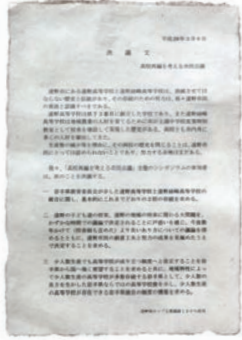




1\_ 3月6日、両校の同窓会など22の市民団体の代表者で構成する「高校再編を考える市民会議」が設立され、シンポジウムを開催 2\_ 9日、高橋嘉行県教育長(左)へ両校存続を要望する藤井会長ら 3\_ 要望の際に読み上げた決議文は、遠野緑峰高が開発したホップ和紙に印刷された



# 【特集】 高校再編に、 異議あり！

昨年11月、遠野に衝撃が走った。県教育委員会が、生徒数の減少を背景に遠野緑峰高と遠野高を統合するという県立高校再編計画案を示したのだ。「数合わせの統合は許さない」。遠野は、高校再編に異議を申し立てた。

## 新たな県立高校再編計画【概要】

3月29日策定 計画期間▷H28~37年度

### 学校配置の考え方

- ◎望ましい学校規模
  - ▶原則1学年4~6学級程度(最低規模は1学年2学級)
- ◎統合基準
  - ▶2年連続で20人以下となった場合は、翌年度から募集を停止し統合
- ◎統合に伴う校舎制の導入
  - ▶複数の校舎を使用し、1つの学校として機能させる「校舎制」を視野に入れて統合

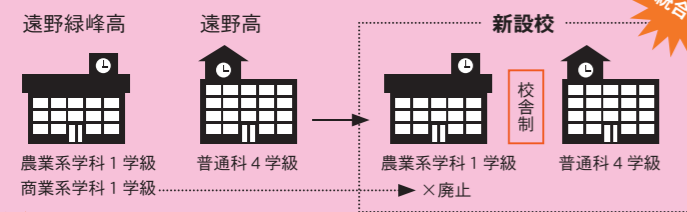
### 【全日制高校の学校・学級数の見込み】

H28 63校 → H32 60校 H28 255学級 → H32 216学級

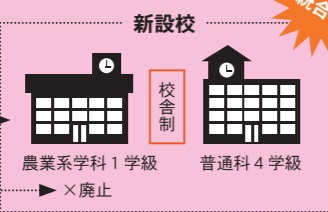
### 遠野地区における計画

- ◎遠野緑峰高と遠野高を統合し、普通科と農業系学科の併設校(普通科4学級、農業系学科1学級)を新設 ※商業系学科は廃止
- ◎現在ある2つの校舎を活用し、学科ごとに分かれて授業をする「校舎制」を新たに導入
- ◎校歌・校章・制服なども新たに設定

### 【現在】



### 【平成32年度】



ただし「地域の取り組みや、平成30年度までの入学者の状況などを検証し、統合時期などについて検討します。」

県立高校再編計画の詳細は、県のホームページへ。

岩手県

検索

を立ち上げた。同会議は、生徒減少を理由に両校の歴史を閉じることは認められないとし、▽市民の努力の成果を見極める十分な時間を確保すること▽少人数の良さを生かした高校像を示すことなどを求める決議文を採択。同日、県教委などに両校存続を要望し、高校再編に異議を唱えた。

統合予定の他地区でも反対運動が起きている。

遠野の動きに呼応するように、統合予定の他地区でも反対運動が起きている。

### 統合案に「検討の余地」

県教委は地域説明会などを通じて得られた住民や関係機関からの意見を踏まえ、「新たな県立高等学校再編計画」(左記参照)を正式に策定。統合については、「地域の取り組みや、平成30年度までの入学者の状況などを検証してから検討する」旨の内容が新たに示された。遠野の反響が、計画に「検討の余地」を盛り込ませたことになる。

計画案は、▽遠野・久慈・宮古地区では、高校を統合し新たに「校舎制」を導入▽学校の最少規模は1学年2学級とし、通学困難地域は1学級でも特例で存続などが盛り込まれ、今後5年かけて県全体で39学級、3校を削減するものだ。

遠野地区では、遠野緑峰高と

しかし、高校の存廃は、地域

「数合わせ」は許さない

今回の高校再編の流れは、県教育委員会(以下、県教委)が平成22年3月に、「今後の高等学校教育の基本的方向」を策定したことに始まる。それを基に第2次高校整備計画を策定する予定だったが、東日本大震災を受けて延期。平成26年度から協議を再開し、昨年11月、「新たな県立高等学校再編計画案」(以下、計画案)が示された。

少子化の波

高校再編の背景には少子化による生徒数の減少がある。市内の両校も、最近では定員割れが続いている。県教委は今回の再編を通じ、望ましい学校規模(1学年4~6学級)を維持し、履修科目や部活の選択肢の充実、集団の学び合いによる人格形成といった、教育の「質」の確保に取り組み考えだ。

### 高校再編とは

計画案は、▽遠野・久慈・宮古地区では、高校を統合し新たに「校舎制」を導入▽学校の最少規模は1学年2学級とし、通学困難地域は1学級でも特例で存続などが盛り込まれ、今後5年かけて県全体で39学級、3校を削減するものだ。

市民、立ち上がる

計画案を受け、市は、人口減少対策として子育て支援に力を入れていくこと、市総合計画などに両校存続に向けた支援策を盛り込んでいることから、両校存続を正式に要望。

さらに、市民有志は3月6日、「高校再編を考える市民会議」(藤井洋治会長、メンバー22人)

### 中学卒業予定者数と高校入学予定者数の推計

	H28	H32	H37
中学卒業予定者数	岩手県(※) 12,084	10,775	9,806
	遠野市 220	212	189
高校入学予定者数	遠野緑峰高 52	49	44
	遠野高 136	128	111

資料提供…※のみ県教委。それ以外は、市教育委員会

### 高校再編に関するこれまでの経過

- 平成22年3月 県教育委員会が「今後の高等学校教育の基本的方向」を策定。
- 平成23年3月 東日本大震災発生。
- 同年6月 第2次高校整備計画の策定延期を決定。
- 平成27年4月 「今後の高等学校教育の基本的方向」を改訂。
- 同年6月 県教育委員会が主催する第1回「今後の県立高校に関する地域検討会議」開催。市関係者が出席。
- 同年11月 「新たな県立高等学校再編計画案」が示される。
- 平成28年2月 市は両校存続を正式に要望。
- 同年3月6日 市民有志が「高校再編を考える市民シンポジウム」を開催。同日に「高校再編を考える市民会議」を設立。
- 同年3月9日 「高校再編を考える市民会議」は県・県議会・県教育委員会に両校存続を要望。
- 同年3月29日 「新たな県立高等学校再編計画」が示される。

## 学校概要

- 創立 明治34年
- 生徒数 417人(男227人/女190人)
- 定員 普通科160人(4学級)
- 部活動
- 【運動部】野球、バスケットボール、水泳、ソフトテニス、剣道、バドミントン、陸上、サッカー、ソフトボール、バレーボール
- 【文化部】音楽、商業、理科学研究、水道学、茶道、美術、書道、邦楽
- 卒業生の進路(H27年度実績)
- 進学76%、就職23%、その他1%
- 特色など
- ★国公立大合格者26人、難関私大合格者2人(H27年度実績)
- ★サッカー部は全国選手権大会に25回出場する強豪。最近の成績/H17年度3位(市民栄誉賞受賞)、H19年度8位、H25~27年3年連続出場
- ★邦楽部はH27年度全国大会出場。その他、美術部、理科学研究部、吹奏楽部は全国大会で活躍。
- ★企業や大学と連携した各種研修、市民ワークショップなどに積極的に参加。



1\_ 世界各国の大学生と交流しながら遠野のまちづくりを考える東大イノベーションサマープログラム  
2\_ サッカー部は遠野を全国にPRしている 3\_ 三田屋プロジェクトにも参加。高校生の視点でまちなか再生に取り組んでいる



## 旧制中学からの歴史を誇る、文武両道を貫く名門

旧制中学の歴史と伝統が息づく遠野高は、現在普通科が4学級。特に、進学率は上昇傾向にあり、大学や専門学校などの上級学校を志す中学生の受け皿となっている。文武両道を貫く同校は、部活動でも輝かしい成績を誇る。特に、サッ

カー部の強さは全国区で、「サッカーのまち遠野」をけん引してきた。三田屋プロジェクトや東京大学イノベーションサマープログラムなどの地域づくり活動にも積極的に参加。高校生ならではの視点で、遠野の活性化に生かされている。



1\_ 同校の名を全国に轟かせたホップ和紙プロジェクト  
2\_ チャレンジショップでは生徒が主体的にマーケティングを学ぶ 3\_ 国体の花いっぱい活動にも貢献



## 学校概要

- 創立 昭和23年
- 生徒数 161人(男87人/女74人)
- 定員 生産技術科40人、情報処理科40人 ※いずれも1学級
- 部活動
- 【運動部】野球、陸上、バスケットボール、サッカー、バレーボール
- 【文化部】吹奏楽、写真、書道、茶華道、美術、馬事研究会
- 卒業生の進路(H27年度実績)
- 進学23%、就職77%(うち、管内就職率78%)、その他0%
- 特色など
- ★ホップ和紙プロジェクトが平成26年度日本学校農業クラブ全国大会最優秀賞(文部科学大臣賞)を受賞するなど、さまざまなタイトルを獲得。その他、早池峰菜復活プロジェクトなど地域密着型の多彩なプロジェクト研究が各賞を受賞。
- ★先進農家宿泊研修、チャレンジショップを実施。
- ★総合的な学習の時間で、地元学、遠野ゼミナールなどを実施し、地域連携のカリキュラムを展開。

**失くせない理由**

遠野緑峰高は農業系と商業系の実業校として、遠野高は文武両道の進学校として、それぞれ異なる特色を持つ。進学、就職、部活など、明確な目的を持つ生徒が、少人数ならではのきめ細かい指導体制の中で、学びを深めている。

共通点は、地域との関わりが深いこと。伝統的に地域づくり活動に取り組み、高校生ならではの視点で、遠野の魅力づくりに生かされている。また、地域密接の3年間を過ごした卒業生は、遠野愛を深め、それぞれの分野で活躍する地域の担い手となっている。

もし、両校が統合したら、どうなるだろうか。地域と共に歩む両校の伝統と歴史が閉ざされ、遠野の誇りが失われてしまう。2校あるからこそ、特色ある学校づくりが展開され、多彩な人材が輩出されているはずだ。両校を統合し学科を減らす再編計画は、地元中学生の選択肢を奪い、地域を担う人材育成に暗い影を落としかねない。

# 遠野の誇り

両校の特色ある学校作りは、地域に元気を与え、遠野を全国にPRしてきた。多彩な人材を生み出す両校は、地域の未来を支える、かけがえの無い存在だ。



遠野高・岩手大卒  
**太田 美晴** さん  
花巻農協遠野支店勤務  
25歳=松崎町=

遠野高の進路指導は、進学から就職まで、自分ひとりの目標づくりをサポートしてくれます。私は農学部に進学する夢を持ち、叶えることができました。大学で学んだことを、地域に還元していきたいですね。



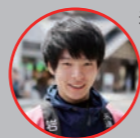
遠野高・水沢高卒  
**武田 和志** さん  
六角牛病院勤務  
23歳=鷺崎町=

高校時代に震災を経験。看護師不足の現状を知り、将来の目標を決めました。熱心な進路指導のおかげで高等看護学校に進学することができ、今の自分があります。遠野の医療現場を支える人材になりたいです。



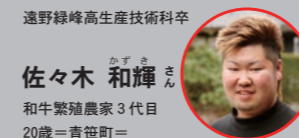
遠野高・岩手県立大卒  
**河内 真澄** さん  
デイサービスかわうち所長  
27歳=上組町=

遠野高は、文武両道が特徴。部活も勉強もイベントも、思う存分打ち込める環境があります。きめ細かい入試対策も魅力。大学や企業などとの交流がもっと増えれば、さらに魅力的な高校になるかもしれません。



遠野緑峰高生産技術科卒  
**新田 佳祐** さん  
遠野市役所  
19歳=附馬牛町=

高校時代は、ホップ和紙プロジェクトに参加。地域課題を遠野の魅力に変える研究は、本当に勉強になりました。今後は、母校の取り組みを支え、地域活性化と産業振興につなげていきたいと思っています。



遠野緑峰高生産技術科卒  
**佐々木 和輝** さん  
和牛繁殖農家3代目  
20歳=青笹町=

家業を継ぐため、生産技術科へ。共進会への参加や充実した実習施設での授業を通じ、専門的な技術・知識を身に付けることができました。遠野一の畜産農家になって、母校に恩返ししたいと思っています。



遠野緑峰高情報処理科・岩手県立短大卒  
**木村 智聖** さん  
松田建設機勤務  
20歳=東館町=

卒業後は県立短大に進学しましたが、生まれ育った遠野で働きたいと、4月に現在の会社に就職しました。簿記や情報処理検定など、高校時代に取得した実践的な資格は、現在の仕事に生かされています。



遠野緑峰高情報処理科卒  
**五日市 好甲** さん  
㈱オサダ勤務  
20歳=綾織町=

地元就職を目指し、就職指導などが手厚い情報処理科へ。各種資格を取得できたほか、生産技術科と連携したカリキュラムで視野が広がりました。3年間で学んだスキルを生かし、自分を高めていきたいですね。

## 両校の卒業生にインタビュー

地域で活躍するOB・OGに、両校の魅力について聞きました。

## 高校魅力化を 私たち市民も支えよう

再編計画は、私たちに、地元の高  
校が地域にとって大切な存在である  
ということ、再認識させるきっか  
けになりました。県教委が計画を策  
定したという事実は非常に重いこと、  
両校の統合が地域を衰退させる可能  
性をはらんでいることに、私たちは  
もっと危機感を持つ必要があります。  
まず、両校の特色や地域で果たす  
役割を、知ることから始めましょう。  
そうすれば、両校存続のために、私  
たちにできることが、きっと見つかる  
はず。将来を担う若者のために、  
そして、地域の未来のために、  
私たち市民も、高校魅力化を支えま  
しょう。



高校再編を考える  
市民会議

藤井 洋治 会長  
遠野緑峰高 元校長



Interview 2

## 中高連携サポート室

澤村 一行 室長  
市教育委員会事務局  
教育部長

## 現状を打開するには 行動あるのみ

統合案に「検討の余地」が生まれま  
したが、両校存続のためには実質2  
年間で実績を出す必要があり、依然  
として厳しい状況にあるのも事実で  
す。この現状を打開するには、行動  
あるのみ。中高連携サポート室では、  
今すぐできることから始めます。  
また、本年10月を目途に策定する  
アクションプランを着実に進め、  
両校の特色を生かした魅力化に産学  
官民の連携で取り組む考えです。

両校存続のためには、市民の皆さ  
んの協力が必要です。ぜひ、皆さん  
のアイデアをいただきたいと思っ  
ています。共に考え、行動し、地元  
の高校を守っていきましょう。

## インフォメーション

### 高校魅力化のアイデアを 募集しています！

中高連携サポート室では、高校魅力  
化のアイデアや、協力してくれる団  
体などを募集しています。詳細は下  
記まで問い合わせください。

■問い合わせ 市中高連携サポート  
室 ☎62-4412

# 高校再編のピンチを、 地域人材育成のチャンスへ！

### 地域連携

- ◎地元学
- ◎ボランティア
- ◎魅力PR



### 学びの支援

- ◎地域教育
- ◎防災教育

### 2校個別支援

- ◎学力向上支援
- ◎クラブ活動強化



※下記の項目は、現在検討  
しているものの一例です

### 就学・生活支援

- ◎入学支度支援
- ◎修学資金貸付制度の拡充
- ◎遠距離通学支援
- ◎学校給食の提供
- ◎学区外生徒の寮支援

### 中・高・大連携

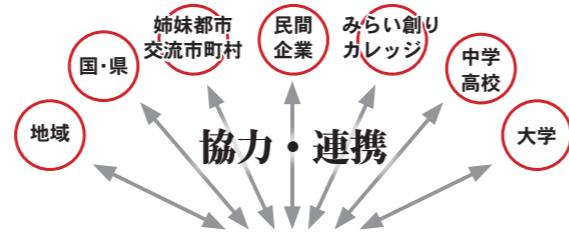
- ◎中学生との交流
- ◎大学生との交流

### キャリア教育

- ◎インターンシップ
- ◎国際交流



アクションプラン(策定中)



## 高校再編を考える市民会議 中高連携サポート室

## 第1弾

## 地元の中学生に、両校の 魅力をしっかりとPR。

地元の中学生が進路を決める際、まず地元高校への進  
学を検討してもらうことが大切。そのために、両校の  
魅力や両校での学校生活を具体的にイメージしてもら  
えるように、オープンキャンパスの開催やパンフレッ  
トの作成など、さまざまなPR活動を展開します。

## 第2弾

## 遠野らしい高校魅力化に、 すぐに着手。

中学生やその保護者に「ここで学びたい」「ここで学ば  
せたい」と思ってもらうには、両校のさらなる魅力化  
が必要。中高連携サポート室と高校再編を考える市民  
会議を中心にアクションプランを策定し、関係機関と  
連携して地域資源を生かした魅力化に取り組みます。

## 第3弾

## 県内外から生徒を集める 環境づくりを展開。

第2弾の魅力化の取り組みと同時に、「ここで学びた  
い」と思ってくれる生徒を受け入れる環境づくりを行  
います。そうすれば、県内外から生徒が集まり、生  
徒数の減少を防ぐことができるはずです。具体的には、  
寮生活支援や修学支援の拡充を検討します。

## 官民連携のアクションが必要！

ピンチをチャンスに  
遠野の反響は、再編計画に  
「検討の余地」を盛り込ませた。  
しかし、それは条件付き。両校  
存続の行方は、今後の遠野の取  
り組みにかかっている。そして、  
2年以内に成果を出さなければ  
ならない。異議を申し立てても、  
私たちが行動しなければ、未  
来は変わらない。地元の誇りであ  
る両校の存続のためには、「遠  
野の高校は、遠野が守る」とい  
う気概と、具体的な行動が今す  
ぐ必要だ。  
市は、今年度から市教育委員  
会事務局内に中高連携サポート  
室を設置。今後、高校再編を考  
える市民会議や関係機関の意

見・提言を基にアクションプラ  
ンを策定。国や県、民間企業  
大学、地域などと連携し、地域  
資源を生かした高校の魅力化に  
取り組む。中学生とその保護者  
に「ここで学びたい」「ここで学  
ばせたい」と思ってもらえれば、  
生徒数は増加し、再編を行なう  
必要がなくなるはずだ。  
生徒減少による再編の議論は、  
避けて通れない。しかし、人  
口減少時代の地域を担う若者  
を、どう育てていくのかという  
ことも、同時に考える必要があ  
る。高校の存廃を、県や県教委  
だけに任せてはいけない。10年  
後、20年後の未来を見据え、地  
域が責任を持ち、高校の魅力化  
を支えていく必要がある。高校再  
編のピンチは、地域の未来を考  
えるチャンスでもある。遠野な  
らではの魅力ある高校づくりに  
一緒に取り組んで行こう。

両校の存続は、これからの遠野の取り組みにかかっている。  
遠野の高校を守るために、私たちにできることは――。

# 遠野の高校は、 遠野が守る！

高校再編に、  
異議あり！

## 両校存続の条件

### ✓ 大幅な定員割れが無いこと

2年連続で1学級の生徒数が20人以下の場合  
は、翌年度に募集が停止され、統合が進められま  
す。特に、学科廃止が検討されている遠野緑峰高  
情報処理科の生徒減少を防ぐ必要があります。

### ✓ 地域で魅力ある学校をつく り生徒が増えること

地方創生に向けた地域の取り組みが、存続の  
検討材料になります。地域が協力して魅力ある  
学校づくりを応援し、両校を志望する生徒を増  
やすことが求められます。

さらに  
今後 **2** 年以内(平成30年度まで)に  
成果を上げる必要があります！